

【平成30年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証							
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)						
01	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <p>より質の高い医療を安定的に提供するため、医師・看護師・コメディカル等医療従事者の必要数確保及び定着を図る。</p> <p>特に医師の勤務条件を緩和するため医師確保と医師定着化の取組として、次の事項等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下呂温泉病院勤務医師や岐阜大学地域医療医学センター医師等が地域の教育研究を実践する場として設置した地域医療研究研修センターにおいて、地域医療を志す医師の養成 ・定年を迎えた医師のうち、質の高い医療の提供に寄与すると認められる者の再雇用 ・医師等求人エージェントの活用 ・インターネットや医学専門誌などのメディアの積極的活用による医師の公募 ・県民ニーズに柔軟かつ迅速に対応できるよう非常勤医師を活用 ・医師の業務負担の軽減を図るため、医師事務作業補助者を充実するほか、看護師が医療業務に専念できるように病棟事務補助者の設置に向けた取組 ・再就職支援者研修を開催するなど看護師負担の軽減とともに高い患者サービスも可能な看護体制維持に必要な看護師数の確保 	<p>2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保</p> <p>○ 医師の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は常勤医2名（整形外科医、耳鼻咽喉科医）、非常勤医師1名（産婦人科医）、臨床研修医2名を確保することができた。 ・医師募集エージェントへの登録（インターネット等の活用） <p>昨年度に引き続き募集情報を登録 5社 （うち1社：採用情報提供サービスに係る有料契約を締結）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤医不在の診療科（小児科、泌尿器科、眼科）及び常勤医不足の診療科については、岐阜大学病院・岐阜県総合医療センター等からの支援医師（非常勤）により、診療体制を確保し、地域の県民ニーズに対応した医療の推進を図った。 <p>診療依頼延べ回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,717回</td> <td>1,222回</td> <td>1,708回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 看護師負担の軽減と看護体制維持に必要な看護師数の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護部において、ワークライフバランス（WLB：仕事とプライベートのバランスをとれるようにする取り組み）を推進した。業務改善や前残業を減らす活動（職員への呼びかけ）をした結果、前残業は前年度と比較し46%減少した。 	28年度	29年度	30年度	1,717回	1,222回	1,708回	III		<p>常勤医師2名及び非常勤医師1名の確保については努力が同える。医師の確保のため、引き続き努力されたい。</p> <p>また、看護師の再就職支援及び薬剤師の確保についても引き続き努力されたい。</p>
28年度	29年度	30年度									
1,717回	1,222回	1,708回									

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 退職後の看護師が中心となって患者搬送を行う「ポーター制度」を引き続き実施した。平成 30 年度は患者搬送に加えて、外来支援も定期的に行える支援体制を整備した。 ・ 看護の質の向上と拘束時間の短縮を目的に、新たな看護方式「PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム)」を全ての病棟へ導入し、PNSの定着を図った。また、監査員による評価を1病棟に行い、PNSの課題の洗い出しを行った。 ・ WLB推進事業委員会を毎月開催し、院内誌「かえる通信」を通じて、職員紹介、職員紹介、福利厚生等の情報を提供した。 ・ 法人化のメリットである弾力的な職員採用 (随時募集・年2回の就職試験) を行い、看護体制の維持に必要な看護師・看護補助者等を確保した。(非常勤看護師1名、業務補助看護師1名、非常勤看護補助者1名) ・ 再就職支援者研修を2回計画したが、参加はなかった。 県看護協会・県ナースセンターが主催する看護職員等就業促進研修事業への参加、院内ポスターの掲示、下呂市が発行する機関誌への掲載などにより、引き続き看護師の再就職を支援する。(●) ・ 大垣女子短期大学看護学科24名のガイダンスを受け入れた。 看護師等に係る採用活動の実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">職種別</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">常 勤</td> <td>看護師</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">非 常 勤</td> <td>(専門業務) 看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(業務補助) 看護師</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(専門業務) 看護補助者</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(業務補助) 看護補助者</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ コメディカル等の医療従事者の確保 より質の高い医療の提供に必要なコメディカル、医師事務作業補助者の確保に取り組んでいる。薬剤師の確保については、随時募集の実施や大学へのPRを行っているが、欠員(1人)が充足できない状態が続いている。今後も引き続き薬剤師の確保に取り組む。(●) 	職種別		28年度	29年度	30年度	常 勤	看護師	12	14	9	助産師	-	-	1	保健師	-	-	-	非 常 勤	(専門業務) 看護師	1	1	5	(業務補助) 看護師	1	-	1	(専門業務) 看護補助者	-	-	-	(業務補助) 看護補助者	2	2	1			
職種別		28年度	29年度	30年度																																				
常 勤	看護師	12	14	9																																				
	助産師	-	-	1																																				
	保健師	-	-	-																																				
非 常 勤	(専門業務) 看護師	1	1	5																																				
	(業務補助) 看護師	1	-	1																																				
	(専門業務) 看護補助者	-	-	-																																				
	(業務補助) 看護補助者	2	2	1																																				

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																												
		<p>コメディカル（常勤）採用活動の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種別</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度4月1日採用者は、前年度の採用状況に含む。</p> <p>医師事務作業補助者採用活動の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種別</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(専門業務) 医師事務作業補助者</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度4月1日採用者は、前年度の採用状況に含む。</p>	職種別	28年度	29年度	30年度	薬剤師	0	0	0	臨床検査技師	1	2	1	臨床工学技士	0	0	1	診療放射線技師	0	1	2	理学療法士	2	2	2	言語聴覚士	0	2	0	管理栄養士	0	1	0	社会福祉士	2	0	1	職種別	28年度	29年度	30年度	(専門業務) 医師事務作業補助者	1	2	0			
職種別	28年度	29年度	30年度																																														
薬剤師	0	0	0																																														
臨床検査技師	1	2	1																																														
臨床工学技士	0	0	1																																														
診療放射線技師	0	1	2																																														
理学療法士	2	2	2																																														
言語聴覚士	0	2	0																																														
管理栄養士	0	1	0																																														
社会福祉士	2	0	1																																														
職種別	28年度	29年度	30年度																																														
(専門業務) 医師事務作業補助者	1	2	0																																														
04	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上</p> <p>近隣の医療機関と連携強化することで、紹介・逆紹介を促進する。</p> <p>下呂市立金山病院については、地域医療構想の趣旨を踏まえ地域医療を提供する体制の構築に向けて連携を図る。</p> <p>ア 岐阜県立下呂温泉病院 急性期医療（脳疾患、心疾患）、回復期医療、産科医療、二次救急医療、病棟機能（急性期病棟・地域包括ケア病棟・回復期病棟）</p> <p>イ 下呂市立金山病院 急性期医療、慢性期医療、一次救急医療、病棟機能（急性期病棟・療養病棟）</p> <p>また、脳血管障害後遺症等での長期入院患者については、下呂市立金山病院が受け皿の役目を果たすなどの連携を確保することで、</p>	<p>1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の向上</p> <p>近隣の医療機関との連携強化を推進し、地域診療所（かかりつけ医）と当院の役割分担に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>37.8 %</td> <td>41.3 %</td> <td>41.7 %</td> </tr> <tr> <td>紹介実施件数</td> <td>2,513 件</td> <td>2,437 件</td> <td>2,676 件</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>43.6 %</td> <td>50.3 %</td> <td>51.3 %</td> </tr> <tr> <td>逆紹介実施件数</td> <td>4,164 件</td> <td>4,550 件</td> <td>4,354 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 歯科を除く。</p> <p>○ 下呂市立金山病院及び小坂診療所との連携 新人看護師研修への協力や情報交換等により、下呂市立金山病院及び小坂診療所との連携に努めた。</p>	項目	28年度	29年度	30年度	紹介率	37.8 %	41.3 %	41.7 %	紹介実施件数	2,513 件	2,437 件	2,676 件	逆紹介率	43.6 %	50.3 %	51.3 %	逆紹介実施件数	4,164 件	4,550 件	4,354 件	III	<p>紹介率・逆紹介率が向上している点は評価できる。</p> <p>地域連携クリニカルパスの普及に向けては、がん診療拠点病院との意見交換を行うなど、引き続き努力されたい。</p>																									
項目	28年度	29年度	30年度																																														
紹介率	37.8 %	41.3 %	41.7 %																																														
紹介実施件数	2,513 件	2,437 件	2,676 件																																														
逆紹介率	43.6 %	50.3 %	51.3 %																																														
逆紹介実施件数	4,164 件	4,550 件	4,354 件																																														

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)												
	<p>地域で完結できる医療体制の更なる充実を図るため、連携会議を開催する。</p> <p>さらに、地域の医療機関による高度医療機器の使用や開放型病床の共同利用に努めるなど病診・病病連携を推進するほか、下呂市医師会の会員として、理事会や症例発表会に参加し、医療水準の向上と連携強化を図る。</p> <p>2 地域連携クリニカルパスの整備普及</p> <p>飛騨地域の基幹病院として、他の医療機関との機能分担と連携を強化するために、地域連携クリニカルパスの整備・普及等に取り組む。</p> <p>慢性腎臓病(CKD: Chronic Kidney Disease) 予防に取り組む下呂市が作成した連携パスについて、二次医療機関として普及促進に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下呂市立金山病院新任看護師1名が当院での研修に参加 ・院内感染対策に関する研修を実施 (下呂市立金山病院2回、小坂診療所1回) <p>また、下呂市立金山病院院内感染対策室との連携により、院内感染防止対策を強化した。</p> <p>2 地域連携クリニカルパスの整備普及</p> <p>○ 当院は、計画管理病院の転院先となる回復リハビリテーション病院の一つであるが、地理的な問題もあり、平成29年度に引き続き運用実績は0件であった(次年度に引き続いている症例を除く)。</p> <p>今後も地域連携クリニカルパスの普及に向けて、がん診療拠点病院と意見交換を行うなど整備普及を促進する。(●)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>連携パス名</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東濃地域脳卒中地域連携パス</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>飛騨地域がん地域連携クリニカルパス</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ CKD(慢性腎臓病) 予防に取り組む連携パスの普及促進</p> <p>当院のCKD患者の中には、末期腎不全に近い状態で来院される方や、厳密な食事管理や生活管理が困難な方もおり、連携パスに取り組めないケースが多い。</p> <p>今後も引き続きCKD手帳の早期導入をかかりつけ医に働きかけるほか、指導が必要なCKD患者に対し必要な介入が出来ているか指導内容の評価を行う。</p>	連携パス名	28年度	29年度	30年度	東濃地域脳卒中地域連携パス	0件	0件	0件	飛騨地域がん地域連携クリニカルパス	0件	0件	0件			
連携パス名	28年度	29年度	30年度														
東濃地域脳卒中地域連携パス	0件	0件	0件														
飛騨地域がん地域連携クリニカルパス	0件	0件	0件														

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																				
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>継続支援を行った eGFR30 以下の患者数</td> <td>106</td> <td>138</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>うちCKD手帳の利用者数</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>うち腎臓内科受診者数</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>うち透析導入患者数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>支援内容：検査記録の記載、生活状況の確認と改善のアドバイス、透析への準備教育</p>	区分	28年度	29年度	30年度	継続支援を行った eGFR30 以下の患者数	106	138	94	うちCKD手帳の利用者数	18	21	21	うち腎臓内科受診者数	7	6	7	うち透析導入患者数	4	4	5			
区分	28年度	29年度	30年度																						
継続支援を行った eGFR30 以下の患者数	106	138	94																						
うちCKD手帳の利用者数	18	21	21																						
うち腎臓内科受診者数	7	6	7																						
うち透析導入患者数	4	4	5																						
05	<p>1 へき地医療の拠点的功能の充実</p> <p>広大な診療面積と飛騨川水系に沿った細く長い距離を有するという特徴のため、病院という施設医療のみでは住民の健康を守ることはできない。</p> <p>地域医療研究研修センターの機能を充実し、診療医療の充実と地域診断機能の創設、さらに、診療所との連携強化を図ることで、予防医学及び連携医療を構築し、「生活の場の医療」の完成を目指す。</p> <p>4 予防医療の推進</p> <p>「生活の場の医療」の中で予防医学の基本となる健診及び保健指導を実施する。</p> <p>下呂市の住民健診については、市内全域から受け入れ、特に旧下呂町の6地区の受診機関として引き続き指定を受け、日曜健診にも取り組み、受診率の向上を図る。</p> <p>こうした積極的な取り組みとともに、市・医療機関と連携し予防医療を推進する。</p> <p>また、認知機能低下予防研究会により、認知症患者の早期発見手法の開発(下呂方式による認知症判定の実績づくり)を進めるとともに、健診センターにおいて「もの忘れドック」を実施するこ</p>	<p>1 へき地医療の拠点的功能の充実</p> <p>飛騨南部地域の基幹病院として、不採算部門となりやすい救急・小児・産科医療の提供維持に努めた。</p> <p>平成30年度から新たに、下呂市が実施する産婦支援事業(産後ケア、産婦健診助成事業、母乳育児支援事業)に協力した。また、下呂市から乳幼児健診業務を受託するなど、地域連携による周産期の支援体制づくりに寄与した。</p> <p>○ 乳幼児健診等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4か月児健診 12回、156人 ・ 1歳6か月健診 12回、152人 ・ 歯科健診 12回、152人 <p>4 予防医療の推進</p> <p>平成26年度以降、当院で旧下呂町(6地区)の住民健診を実施し、平成28年度からは下呂市乳がん、前立腺がん健診を受託するなど、健康診断受診率の向上と予防医療の推進を図っている。</p> <p>下呂市がん健診は、要件変更等(※)により前年度と比較し300人以上の増となった。※乳がん健診：41歳以上「2年に1回」を「毎年」に変更。</p> <p>また、昨年度に引き続き、勤労者のために「日曜健診」を3回実施し83名の受診者を受け入れた。</p> <p>日曜健診の実施人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	28年度	29年度	30年度				IV	<p>健診の受診者が顕著に増加していることは評価できる。</p> <p>地域包括ケア病棟の運用による在宅療養支援体制の構築は評価できる。</p>															
28年度	29年度	30年度																							

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																														
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 			自己 評価	論 点	検 証 (案)																																												
	とて認知症の兆候を早期に発見し、症状の進行を緩和するための予防リハビリを実施していく。 ※下呂方式…下呂地域で独自に開発を進めている認知機能の低下を簡易的に判定するスクリーニングテスト	87名	83名	83名																																															
		総合健診センター部 受診者数 (単位：名) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1日ドック</td> <td>1,029</td> <td>1,069</td> <td>1,111</td> </tr> <tr> <td>1日+MR I</td> <td>67</td> <td>63</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>脳ドック</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>生活習慣病予防健診</td> <td>1,556</td> <td>1,699</td> <td>1,744</td> </tr> <tr> <td>下呂市がん検診</td> <td>1,598</td> <td>1,626</td> <td>1,950</td> </tr> <tr> <td>下呂市特定・すこやか健診</td> <td>711</td> <td>625</td> <td>623</td> </tr> <tr> <td>定期健診(下呂病院、下呂看護)</td> <td>681</td> <td>670</td> <td>798</td> </tr> <tr> <td>下呂市肝炎ウイルス検査</td> <td>63</td> <td>51</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>その他(企業健診他)</td> <td>447</td> <td>501</td> <td>582</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,156</td> <td>6,307</td> <td>6,910</td> </tr> </tbody> </table>				28年度	29年度	30年度	1日ドック	1,029	1,069	1,111	1日+MR I	67	63	46	脳ドック	4	3	1	生活習慣病予防健診	1,556	1,699	1,744	下呂市がん検診	1,598	1,626	1,950	下呂市特定・すこやか健診	711	625	623	定期健診(下呂病院、下呂看護)	681	670	798	下呂市肝炎ウイルス検査	63	51	55	その他(企業健診他)	447	501	582	合計	6,156	6,307	6,910			
	28年度	29年度	30年度																																																
1日ドック	1,029	1,069	1,111																																																
1日+MR I	67	63	46																																																
脳ドック	4	3	1																																																
生活習慣病予防健診	1,556	1,699	1,744																																																
下呂市がん検診	1,598	1,626	1,950																																																
下呂市特定・すこやか健診	711	625	623																																																
定期健診(下呂病院、下呂看護)	681	670	798																																																
下呂市肝炎ウイルス検査	63	51	55																																																
その他(企業健診他)	447	501	582																																																
合計	6,156	6,307	6,910																																																
		健康診断収益の推移 単位：千円(税抜) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康診断収益</td> <td>93,011</td> <td>97,370</td> <td>100,142</td> </tr> </tbody> </table>				28年度	29年度	30年度	健康診断収益	93,011	97,370	100,142																																							
	28年度	29年度	30年度																																																
健康診断収益	93,011	97,370	100,142																																																
		特定保健指導の対象団体のほとんどで実施率が向上した。 一方、実施件数(実数)は平成29年度と比較して横ばいとなっている。今後、さらに実施件数が増やせるよう、健診日当日の初回面接を推奨するとともに、協会けんぽや集合契約の受診者などに対して、重点的な指導勧奨を行っていく。																																																	
		特定保健指導実績 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実数</td> <td>106件</td> <td>156件</td> <td>157件</td> </tr> <tr> <td>延べ数</td> <td>176件</td> <td>277件</td> <td>346件</td> </tr> </tbody> </table>			区分	28年度	29年度	30年度	実数	106件	156件	157件	延べ数	176件	277件	346件																																			
区分	28年度	29年度	30年度																																																
実数	106件	156件	157件																																																
延べ数	176件	277件	346件																																																
		※延べ数：「初回面接」と「実績評価」の両方をカウント																																																	

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																																
		<p>特定保健指導実施率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県職員</td> <td>75.0</td> <td>92.0</td> <td>94.4</td> </tr> <tr> <td>県警察職員</td> <td>75.0</td> <td>66.7</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>61.2</td> <td>68.1</td> <td>69.4</td> </tr> <tr> <td>協会けんぽ</td> <td>29.6</td> <td>45.8</td> <td>45.2</td> </tr> <tr> <td>市町村職員</td> <td>—</td> <td>70.0</td> <td>73.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>胸部CTなどの画像検査については、前年度と比較し減少してはいるものの、秋以降のPR強化により、下半期の受診者数は改善した。</p> <p>脳MRI、胸部CT、腹部CT等 がん検査受診者数 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳MRI</td> <td>106</td> <td>105</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>胸部CT</td> <td>117</td> <td>115</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>腹部CT</td> <td>104</td> <td>93</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>全身MRI・CT</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>大腸CT</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>前立腺MRI</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>もの忘れドック</td> <td>—</td> <td>22</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>スクリーニング検査(※)</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>375</td> <td>396</td> <td>321</td> </tr> </tbody> </table> <p>※アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査</p> <p>○ 下呂地域認知機能低下予防研究会 下呂地域における「早期認知症予防システムの構築」を目指し、下呂市（地域包括センター）、下呂市医師会、下呂歯科医師会及び薬剤師会と連携し、「認知症早期発見のための下呂式簡易知能検査」や「予防リハビリ」について検討を進めるとともに、地域シニアクラブの協力を得て、実際に試行することにより、その手法と有効性について検証を進めた。</p>		28 年度	29 年度	30 年度	県職員	75.0	92.0	94.4	県警察職員	75.0	66.7	80.0	教職員	61.2	68.1	69.4	協会けんぽ	29.6	45.8	45.2	市町村職員	—	70.0	73.3	項 目	28 年度	29 年度	30 年度	脳MRI	106	105	83	胸部CT	117	115	100	腹部CT	104	93	78	全身MRI・CT	40	38	23	大腸CT	2	5	0	前立腺MRI	—	5	5	もの忘れドック	—	22	19	スクリーニング検査(※)	6	13	13	計	375	396	321			
	28 年度	29 年度	30 年度																																																																		
県職員	75.0	92.0	94.4																																																																		
県警察職員	75.0	66.7	80.0																																																																		
教職員	61.2	68.1	69.4																																																																		
協会けんぽ	29.6	45.8	45.2																																																																		
市町村職員	—	70.0	73.3																																																																		
項 目	28 年度	29 年度	30 年度																																																																		
脳MRI	106	105	83																																																																		
胸部CT	117	115	100																																																																		
腹部CT	104	93	78																																																																		
全身MRI・CT	40	38	23																																																																		
大腸CT	2	5	0																																																																		
前立腺MRI	—	5	5																																																																		
もの忘れドック	—	22	19																																																																		
スクリーニング検査(※)	6	13	13																																																																		
計	375	396	321																																																																		

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																												
	<p>5 在宅療養支援体制の構築及び推進</p> <p>地域における効率的かつ効果的な医療提供体制を確保することとして、当院においては、地域包括ケア病棟機能を更に充実させ、急性期病棟からの受皿として、在宅復帰支援に向けチーム医療の強化、推進を図る。</p> <p>認定看護師などの専門性の高い能力を活用し、在宅で療養している患者、家族が安心して療養生活ができるよう相談窓口として、「看護外来」を設置するとともに訪問看護ステーションや施設とも連携した訪問指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能低下予防リハビリ研修 (集団指導) <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>26 回</td> <td>12 回</td> <td>5 回</td> </tr> <tr> <td>実参加者数</td> <td>157 名</td> <td>168 名</td> <td>88 名</td> </tr> <tr> <td>参加クラブ数</td> <td>10 団体</td> <td>3 団体</td> <td>1 団体</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防リハビリ指導 (院内個別指導) <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>5 例 (2)</td> <td>1 例</td> <td>2 例</td> </tr> <tr> <td>延べ実施数</td> <td>14 回</td> <td>3 回</td> <td>2 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H28 5 症例中、うち 2 例は H27 と同一症例</p> <p>5 在宅療養支援体制の構築及び推進</p> <p>○ 地域包括ケア病棟</p> <p>病床機能の役割分担として、地域包括ケア病棟 3 棟 104 床 (平成 30 年 10 月より東 3 階病棟 28 床変更) を運用しており、当院では 3 つの病棟機能 (急性期病棟・地域包括ケア病棟・回復期病棟) により、在宅療養支援体制を構築している。</p> <p>地域包括ケア病棟の効率的な病棟運営を行うため、毎週 2 回を定期的に、また臨時的に地域包括ケア病棟判定会議を開催し、地域包括ケア病棟への転床時期を決定すると同時に早期在宅復帰支援を推進した。</p>	実績	28 年度	29 年度	30 年度	実施回数	26 回	12 回	5 回	実参加者数	157 名	168 名	88 名	参加クラブ数	10 団体	3 団体	1 団体	実績	28 年度	29 年度	30 年度	症例数	5 例 (2)	1 例	2 例	延べ実施数	14 回	3 回	2 回			
実績	28 年度	29 年度	30 年度																														
実施回数	26 回	12 回	5 回																														
実参加者数	157 名	168 名	88 名																														
参加クラブ数	10 団体	3 団体	1 団体																														
実績	28 年度	29 年度	30 年度																														
症例数	5 例 (2)	1 例	2 例																														
延べ実施数	14 回	3 回	2 回																														

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価			評価委員会の検証																																																																											
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>病棟名・区分</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">東 4</td> <td>延べ患者数</td> <td>10,758 人</td> <td>10,941 人</td> <td>10,473 人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>77.6%</td> <td>78.9%</td> <td>75.5%</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>95.2%</td> <td>90.3%</td> <td>93.0%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>37.4 日</td> <td>33.5 日</td> <td>38.6 日</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">西 4</td> <td>延べ患者数</td> <td>10,786 人</td> <td>11,041 人</td> <td>10,062 人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>77.8%</td> <td>79.6%</td> <td>72.6%</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>87.8%</td> <td>93.2%</td> <td>83.1%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>34.6 日</td> <td>32.2 日</td> <td>33.5 日</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">東 3</td> <td>延べ患者数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,269 人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>64.2%</td> </tr> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>97.7%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>16.4 日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※東3病棟は、運用開始のH30.10月からの実績 ※在宅復帰率は6ヶ月平均の3月末値</p> <p>○ 継続看護連絡会議 既存の退院支援プログラムの見直し、外来通院中からの継続的な支援方法等について検討した。次年度は入院時の支援の充実に取り組む。</p> <p>会議の実施件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議名</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域包括ケア判定会議</td> <td>112 回</td> <td>117 回</td> <td>120 回</td> </tr> <tr> <td>継続看護連絡会議</td> <td>81 回</td> <td>144 回</td> <td>105 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 介護者及び関係施設職員に係る褥瘡指導 当院の皮膚・排泄ケア認定看護師が、メール、電話、手紙などでの相談に対応した(約160件)。また、関係施設職員に対する褥瘡ケア指導を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関係施設職員褥瘡ケア指導</td> <td>9 回</td> <td>13 回</td> <td>8 回</td> </tr> </tbody> </table>	病棟名・区分	28 年度	29 年度	30 年度	東 4	延べ患者数	10,758 人	10,941 人	10,473 人	病床利用率	77.6%	78.9%	75.5%	在宅復帰率	95.2%	90.3%	93.0%	平均在院日数	37.4 日	33.5 日	38.6 日	西 4	延べ患者数	10,786 人	11,041 人	10,062 人	病床利用率	77.8%	79.6%	72.6%	在宅復帰率	87.8%	93.2%	83.1%	平均在院日数	34.6 日	32.2 日	33.5 日	東 3	延べ患者数	—	—	3,269 人	病床利用率	—	—	64.2%	在宅復帰率	—	—	97.7%	平均在院日数	—	—	16.4 日	会議名	28 年度	29 年度	30 年度	地域包括ケア判定会議	112 回	117 回	120 回	継続看護連絡会議	81 回	144 回	105 回		28 年度	29 年度	30 年度	関係施設職員褥瘡ケア指導	9 回	13 回	8 回			
病棟名・区分	28 年度	29 年度	30 年度																																																																													
東 4	延べ患者数	10,758 人	10,941 人	10,473 人																																																																												
	病床利用率	77.6%	78.9%	75.5%																																																																												
	在宅復帰率	95.2%	90.3%	93.0%																																																																												
	平均在院日数	37.4 日	33.5 日	38.6 日																																																																												
西 4	延べ患者数	10,786 人	11,041 人	10,062 人																																																																												
	病床利用率	77.8%	79.6%	72.6%																																																																												
	在宅復帰率	87.8%	93.2%	83.1%																																																																												
	平均在院日数	34.6 日	32.2 日	33.5 日																																																																												
東 3	延べ患者数	—	—	3,269 人																																																																												
	病床利用率	—	—	64.2%																																																																												
	在宅復帰率	—	—	97.7%																																																																												
	平均在院日数	—	—	16.4 日																																																																												
会議名	28 年度	29 年度	30 年度																																																																													
地域包括ケア判定会議	112 回	117 回	120 回																																																																													
継続看護連絡会議	81 回	144 回	105 回																																																																													
	28 年度	29 年度	30 年度																																																																													
関係施設職員褥瘡ケア指導	9 回	13 回	8 回																																																																													

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																							
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																						
		<p>○ 在宅療養ハンドブック 外来部門では、「在宅療養ハンドブック」を基に患者情報を共有し、継続看護が必要な患者に対して、生活指導を行うことができた。 平成 30 年度は外来看護師が関わり、在宅療養指導料を 548 件算定した。</p> <table border="1"> <tr> <td>整形外科自己注射指導料</td> <td>251 件 (39 人)</td> </tr> <tr> <td>小児自己注射指導料</td> <td>87 件 (21 人)</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科ストマ指導料</td> <td>97 件 (8 人)</td> </tr> <tr> <td>がん患者指導管理料</td> <td>1 件 (1 人)</td> </tr> <tr> <td>内科自己注射管理料</td> <td>112 件 (22 人)</td> </tr> </table> <p>○ 在宅患者訪問看護・指導料 (専門性の高い訪問看護実施) 平成 28 年度から、通院が困難な在宅療養を行っている患者に対し、計画的な訪問看護を実施している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>訪問看護・指導内容</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> <th>30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緩和ケア (退院後指導)</td> <td>1 回</td> <td>1 回</td> <td>4 回</td> </tr> <tr> <td>褥瘡ケア</td> <td>3 回</td> <td>6 回</td> <td>1 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 周産期医療の推進 地域における妊娠、出産、子育て支援に対して、下呂市と協力して産前産後における支援の充実・強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下呂市と連携し、産婦支援事業 (産後ケア、産婦健診助成事業、母乳育児支援事業) の導入 ・ 産後 2 週間、4 週間健診の実施 ・ ハイリスク母子に対する保健師・地域担当者による連携支援 	整形外科自己注射指導料	251 件 (39 人)	小児自己注射指導料	87 件 (21 人)	泌尿器科ストマ指導料	97 件 (8 人)	がん患者指導管理料	1 件 (1 人)	内科自己注射管理料	112 件 (22 人)	訪問看護・指導内容	28 年度	29 年度	30 年度	緩和ケア (退院後指導)	1 回	1 回	4 回	褥瘡ケア	3 回	6 回	1 回			
整形外科自己注射指導料	251 件 (39 人)																										
小児自己注射指導料	87 件 (21 人)																										
泌尿器科ストマ指導料	97 件 (8 人)																										
がん患者指導管理料	1 件 (1 人)																										
内科自己注射管理料	112 件 (22 人)																										
訪問看護・指導内容	28 年度	29 年度	30 年度																								
緩和ケア (退院後指導)	1 回	1 回	4 回																								
褥瘡ケア	3 回	6 回	1 回																								
10	<p>1 地域医療水準の向上 地域医療研究研修センターでは、岐阜大学地域医療医学センター及び岐阜県総合医療センターとの密接な連携の下に、二次医療圏における医療提供体制の課題と解決策に関する調査研究及び当院を実践フィールドとした地域医療学の研究を行うことで、地域医療を担う医師の養成に取り組む。 また、二次救急体制の課題検討のため、下呂市及び中津川市消防本部と当院医師及びコメディカルとの情報交換会を開催し、症例発表や講演会を</p>	<p>1 地域医療水準の向上 地域医師会との情報交換会を原則第 1 木曜日に実施し、地域開業医との連携を図るとともに、下呂市医師会主催の学術講演会において座長・演者を務めるなどしている。 また、二次医療体制の課題検討のため、下呂市及び中津川市消防本部との情報交換会を毎月開催。症例発表や講演会を通して地域メディカルコントロールの連携を強化し、救急医療体制の充実強化を図った。 飛騨地域メディカルコントロール協議会の感染防止部会に感染管理</p>	III		地域開業医等の医療機器の共同利用が増加しており、努力が伺える。																						

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																					
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																				
	<p>通じて地域メディカルコントロールの連携強化を図る。</p> <p>病診連携を推進し、開業医との情報交換を積極的に行うとともに、高度医療機器や開放型病床の利用促進により地域医療の向上を図る。</p>	<p>認定看護師が参加し、共同して病院前救護における感染対策活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議：2回（5月12日、2月1日） ・感染対策研修会：1回（3月8日） <p>○ 当院医療機器の地域開業医等の共同利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>医療機器</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MR I</td> <td>125 件</td> <td>155 件</td> <td>173 件</td> </tr> <tr> <td>C T</td> <td>25 件</td> <td>29 件</td> <td>17 件</td> </tr> <tr> <td>心エコー</td> <td>—</td> <td>1 件</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>頸動脈エコー</td> <td>—</td> <td>1 件</td> <td>3 件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>150 件</td> <td>186 件</td> <td>195 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 開放型病床の導入</p> <p>医療資源の有効な活用と地域連携の推進を目指し、地元医師会及び歯科医師会等の協力のもと、平成24年度から開放型病床5床を運用しており、患者に対し安心した療養環境の提供が図られている。</p> <p>開放型病床利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数 (実人数)</td> <td>16 名</td> <td>15 名</td> <td>17 名</td> </tr> <tr> <td>利用延べ人数</td> <td>245 名・日</td> <td>335 名・日</td> <td>149 名・日</td> </tr> </tbody> </table>	医療機器	28年度	29年度	30年度	MR I	125 件	155 件	173 件	C T	25 件	29 件	17 件	心エコー	—	1 件	2 件	頸動脈エコー	—	1 件	3 件	計	150 件	186 件	195 件	項 目	28年度	29年度	30年度	利用者数 (実人数)	16 名	15 名	17 名	利用延べ人数	245 名・日	335 名・日	149 名・日			
医療機器	28年度	29年度	30年度																																						
MR I	125 件	155 件	173 件																																						
C T	25 件	29 件	17 件																																						
心エコー	—	1 件	2 件																																						
頸動脈エコー	—	1 件	3 件																																						
計	150 件	186 件	195 件																																						
項 目	28年度	29年度	30年度																																						
利用者数 (実人数)	16 名	15 名	17 名																																						
利用延べ人数	245 名・日	335 名・日	149 名・日																																						
17	<p>1 弾力的運用の実施</p> <p>医療需要の変化や患者の動向に迅速に対応するため、診療科の変更や医師・看護師等の配置の弾力的運用に努める。特に看護師については業務量に応じ柔軟な職員配置を行う。</p> <p>また、医療環境の変化や病棟薬剤業務実施加算などの新たな業務に対応するため、薬剤師の確保に努め、業務に応じた職員配置を行う。</p> <p>その他、障害者雇用に努め、適切な職員配置を促進する。</p>	<p>1 弾力的運用の実施</p> <p>○ 柔軟な勤務配置</p> <p>看護部では、状況に応じたタイムリーな支援体制を構築するために、入退院患者数や看護必要度の把握と支援状況の周知を図った。</p> <p>また、退職後の看護師が中心となって患者搬送を行う「ポーター制度」を引き続き実施した。平成30年度は患者搬送に加えて、外来支援も定期的に行えるよう支援体制を整備した。</p> <p>全部署からの支援時間数 単位：時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,711.0</td> <td>2,532.1</td> <td>2,252.2</td> </tr> </tbody> </table>	28年度	29年度	30年度	3,711.0	2,532.1	2,252.2	III	<p>評価の検討</p> <p>III→II</p> <p>薬剤師に係る欠員充当が実施できていない。</p> <p>IIIのまま</p> <p>薬剤師の人員不足については、引き続き努力が必要。一方、柔軟な勤務配置や多様な勤務形態の非常勤職員の活用などにつ</p>	<p>「III」</p> <p>看護部の柔軟な勤務配置など、おおむね計画どおり実施できている。</p> <p>薬剤師については、人員不足を解消するため、今後も引き続き努力されたい。</p>																														
28年度	29年度	30年度																																							
3,711.0	2,532.1	2,252.2																																							

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)												
	<p>2 効果的な体制による医療の提供</p> <p>職種の特長に基づき、多様な勤務形態の非常勤専門職を活用することで、効率的に医療を提供する。</p> <p>また、各医療現場のニーズにあった適正な人材確保に努める。</p> <p>医師事務作業補助者の業務の質の向上、病棟事務補助者の設置に努める。</p>	<p>○ 病棟薬剤業務実施加算(●)</p> <p>薬剤師に係る欠員充当が実施できず、病棟毎に担当者を張り付けできない状況が続いており、加算の取得には至っていない。今後も欠員を充当し、加算を取得することを目指す。</p> <p>2 効果的な体制による医療の提供</p> <p>【多様な勤務形態の非常勤職員の活用】</p> <p>○ 看護部では看護協会WLB（仕事とプライベートのバランスをとれるようにする取り組み）の推進を受けて、働きやすい職場作りを目指し勤務体制の検討に取り組んだ。</p> <p>看護必要度の高い病棟に1日8時間勤務できる非常勤看護師を配置し、効率的な7：1看護体制の維持に取り組んだ。</p> <p>○ 医師事務作業補助者(医療クラーク)については、計画的な配置により、医師の事務負担の軽減を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務作業補助体制加算(40対1) <p>○ 医事業務専門職の増員による受付業務等の直営化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度以降、外来受付と診断書受付等業務を直営化し、効率的な業務遂行を図っている。 <p>医師事務作業補助者数ほか(各年度3.31時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職 種</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師事務作業補助者</td> <td>6名</td> <td>7名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>医療サービスの業務専門職</td> <td>20名</td> <td>20名</td> <td>20名</td> </tr> </tbody> </table>	職 種	28年度	29年度	30年度	医師事務作業補助者	6名	7名	7名	医療サービスの業務専門職	20名	20名	20名		<p>いては、おおむね計画どおりとなっている。</p>	
職 種	28年度	29年度	30年度														
医師事務作業補助者	6名	7名	7名														
医療サービスの業務専門職	20名	20名	20名														
22	<p>多様な契約手法の導入</p> <p>他の病院の取組を参考に、複数年契約や複合契約、長期継続契約などの多様な契約手法の検討、導入により、契約事務の集約化・簡素化・迅速化を図る。</p> <p>特に、高度医療機器については、購入後のメンテナンス費用も考慮しつつ、必要性が生じた場合のみのスポット契約を視野に検討を行う。</p> <p>また、既に締結した保守契約については、常に見直しを行い、病院全体として支出を抑えていくよう精査を行う。</p> <p>薬剤・診療材料の購入にあたっては、より安価</p>	<p>多様な契約手法の導入</p> <p>【管理担当】</p> <p>平成30年度分の電気需給契約については、節電等により常時供給契約電力を引き下げることができ、大幅な経費削減を図ることが出来た。</p> <p>○医療機器のメンテナンス費用（保守委託）については、昨年度に引き続き、内容及び必要性を精査し、スポット契約への切り換える等により経費削減を図った。</p>	IV		<p>独立行政法人化のメリットを活かしている点は評価できる。</p>												

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																					
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)																				
	に購入するよう努める。	<p style="text-align: center;">単位：千円（税込）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>契約額</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料金</td> <td>78,376</td> <td>71,602</td> <td>▲6,774</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守 11 件</td> <td>51,202</td> <td>50,706</td> <td>▲496</td> </tr> <tr> <td>検査装置保守 7 件</td> <td>4,115</td> <td>3,013</td> <td>▲1,102</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>133,693</td> <td>125,321</td> <td>▲8,372</td> </tr> </tbody> </table> <p>検討事項であった保守契約を取り止めることによる修繕費の増加については、平成 30 年度末時点での支出において、その影響は無く全体として経費の削減に繋がった。 今後も比較・分析を継続の上、有利な契約方針を決定していく必要がある。</p> <p>○次の維持管理業務については、平成 30 年度から 3 年間の複数年契約を改めて締結し、契約事務の集約化・簡素化・効率化を図るとともに、経費の削減に努めた。 ・警備業務、機械、監視室等保安全管理及び電話交換業務、建物清掃委託業務</p>	契約額	H29	H30	減額	電気料金	78,376	71,602	▲6,774	放射線機器保守 11 件	51,202	50,706	▲496	検査装置保守 7 件	4,115	3,013	▲1,102	計	133,693	125,321	▲8,372			
契約額	H29	H30	減額																						
電気料金	78,376	71,602	▲6,774																						
放射線機器保守 11 件	51,202	50,706	▲496																						
検査装置保守 7 件	4,115	3,013	▲1,102																						
計	133,693	125,321	▲8,372																						
25	予算 「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標の期間の最終年度までに、経常収支比率を 100%以上、医業収支比率を 100%以上及び職員給与費対医業収益比率を 60%以下とすることを旨とする。	【経常収支比率】 (●) 経常収支比率について、収支計画の設定比率 91.2%に対して、決算では 90.7%となり、0.5 ポイント計画を下回った。 【医業収支比率】 (●) 医業収支比率について、収支計画の設定比率 94.5%に対して、決算では 93.4%となり、1.1 ポイント計画を下回った。 【職員給与費対医業収益比率】 (●) 職員給与費対医業収益比率について、収支計画の設定比率 80.1%に対して、決算では 83.4%となり、3.3 ポイント下回った。 次年度以降、引き続き経常収支比率及び医業収支比率 100%以上、職員給与費対医業収益比率 60%以下を目指して経営努力を続けていく。	II		経常収支比率、医業収支比率及び職員給与費対医業収益比率の確実な改善に向け、さらなる努力を期待したい。																				
26	1 職員の就労環境の整備 医療従事者の業務負担を軽減するため、必要な人数の確保に努めるとともに、時間外勤務の縮減等の勤務環境の改善を図る。また、職員の実情に応じた柔軟な勤務形態の導入等次の対策を講じる。 ・変則 2 交代制や 2 交代制等、多様な勤務形態の	1 職員の就労環境の整備 職員の就労環境の整備 ○ 夜間救急外来における当直受付業務に係る常勤職員の負担軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度まで常勤職員のみで行っていた夜間当直受付業務について、消防職員 O B を非常勤職員として引き続き採用、計 5 名体制とし、これにより常勤職員の負担の軽減を図っている。 	III		タイムカードの試験導入など、時間外勤務等の適正化については努力が伺える。引き続き、労働管理の適正化を図りたい。																				

項目 No.	H30 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		<ul style="list-style-type: none"> ・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点 (●) 	自己 評価	論 点	検 証 (案)
	<p>導入による人員の確保に努め、看護職員の業務負担の軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急外来に係る管理当直及び日直の受付業務については、引き続き非常勤業務補助職員による対応により、常勤職員の時間外勤務を軽減する。 ・院内相談窓口の機能を強化する。 ・ワークライフバランスの向上、労務管理の手引き書の作成に取り組む等就労環境の整備を行う。 ・新卒看護職員卒後研修や再就職支援研修を開催し、看護実践能力の習得を支援する。 ・職員が高い意欲を持ち、能力を発揮できる病院を目指し、学会等へ参加する機会の確保と、院内における研修会、講演会等の開催に努める。 ・ハラスメントの防止につき、必要な措置を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数の勤務時間設定による時間外勤務の縮減 勤務時間を複数設定し業務に応じた勤務時間の指定をすることで 外来受付等の早出業務を勤務時間内の業務とするよう対応した。 ○ 平成29年度の高山労働基準監督署による是正勧告に対する改善報告も踏まえ、引き続き、労働管理の適正化を図った。 また、時間外勤務の事前命令・事後確認の徹底、電子カルテ等によるアクセスログ管理に加え、事務局にタイムカードを試験導入し、 時間外勤務等の適正化を図った。 			